



今回の担当はマイケルヒューズです。

《弓 削》	毎週月曜日	19:30 ~	弓削地域交流センター
《生 名》	毎週月曜日	9:00 ~	生名公民館
《岩 城》	毎週木曜日	20:00 ~	岩城総合支所庁舎
《魚 島》	毎週水曜日	19:30 ~	魚島開発センター

Hello everyone,

This is Michael Hughes, the ALT on Iwagi. In this column I would like to write about Hayao Miyazaki, since I am a big Studio Ghibli fan, and since Hayao Miyazaki is an important director outside of Japan.

The retirement of Hayao Miyazaki marks the end of an era in Japanese movies. Without a doubt, if you ask a foreigner to name the most famous living producer in Japan, he or she will definitely name Hayao Miyazaki. Even if you ask people who are not interested in anime, many foreigners have seen his movies.

However, Miyazaki has made his final film and while he will continue to make stories (now he is writing a samurai manga), his era as a movie producer is over. What has been his impact? And where does the world of Japanese movies go from here?

The reason Hayao Miyazaki became an animator was that he wanted to make movies that actually meant something. He was moved by one movie in high school in particular, and became obsessed with the idea that through films, he could express emotion. As he graduated college and set out on his career, everything around him became a means to creating meaningful movies.

Miyazaki's movies stand as a pillar of Japanese culture to the rest of the world. Even if Japanese people do not see it this way, when many foreigners think of Japan, they think of Miyazaki. As the Japanese film industry goes forward without Miyazaki's strong presence, where will it go? At least, Miyazaki has made his mark on Japan and the rest of the world—a mark that is not likely to disappear anytime soon. I look forward to the future of Japanese animation, movies, and culture after the era of Hayao Miyazaki.

皆さん、こんにちは。

岩城ALT担当のマイケルヒューズです。

私は昔からスタジオジブリのファンで、また、外国人の多くは彼の映画が好きなので、ここで宮崎駿監督について書きたいと思います。

宮崎駿監督の引退は、日本映画のひとつの時代の終わりを意味していると思います。間違いなく、外国の方に「日本人の中で、一番有名な監督はだれでしょう」と聞けば、確実に「宮崎駿さん」と答えます。たとえアニメに興味がない人でも、多くの方が彼の映画を観たことがあります。

とはいえ、宮崎監督が最後の映画を制作し終わり、まだ物語を制作し続けるかもしれませんが（今、侍に関する漫画を書いています）、映画監督としての彼の時代は終わりました。彼が与えた影響はどのようなものですか。これから日本映画はどうなると思いますか。

宮崎監督がアニメーターになった理由は、有意義な映画を制作したかったからです。彼は高校生の時、ある映画に感銘を受け、映画を通すことで、自らのアイディアを表現し、想いを伝えられることに興味を抱きました。そして大学を卒業後、アニメ会社に就職し、有意義な映画を制作するための道を歩み始めました。

宮崎監督の映画は、世界中で日本文化の良いところを伝えていきます。多くの外国の方は、日本について考えると、宮崎監督の映画について連想します。彼のいない将来では、どのような映画が制作されていくか想像もつきませんが、影響力は偉大なものだと思います。私は宮崎監督の時代が終わった後、日本のアニメ、映画、文化がどうなっていくのか、今後の展開を楽しみにしています。

文・訳:マイケル・ヒューズ

(これは、ALTの原文を載せています)



こんにちは町長です

昨年末、父が他界し、私と妻の親は誰もいなくなつてしまいました。今までは親に守られてきましたので、大きな寂しさと共に次は両親から受けた恩を、少しでも次の世代に返さなければならぬという思いがあります。



父は昭和九年、七歳の頃、旧越智郡関前村から祖父家族全員で、この上島町弓削島に移住してきました。昔のことですから、慣れない土地ということもあり大変苦労したようですが、地域の方々に可愛がられ一生懸命働くことで信頼を築き、私の代に繋いでくれました。私が小さな頃、農業だけでは暮らしていけないので、母は小売店を営み「お好み焼き」も焼いていました。今でも一部が破れたそのお好み台の側で、足が届かないイスに座っていた自分を思い出します。

私が中学校に入学する前後に、「誰もやってくれないので、汲み取りとゴミ収集の仕事を引き受けてくれないか。」との役場からの依頼を父が受け、私も手伝いました。辛いこともありました。これも地域の為、家族の為に頑張りました。母も猛暑の夏や極寒の冬空の下で、働くだけ働いて先に逝ってしまいました。二十年前の父と仲良く幸せにやってくれていると信じています。

父や母が愛したこの上島町に貢献することが、私ができる両親への恩返しです。この上島町で育ててくれた両親に感謝しています。

上島町長 上村俊之